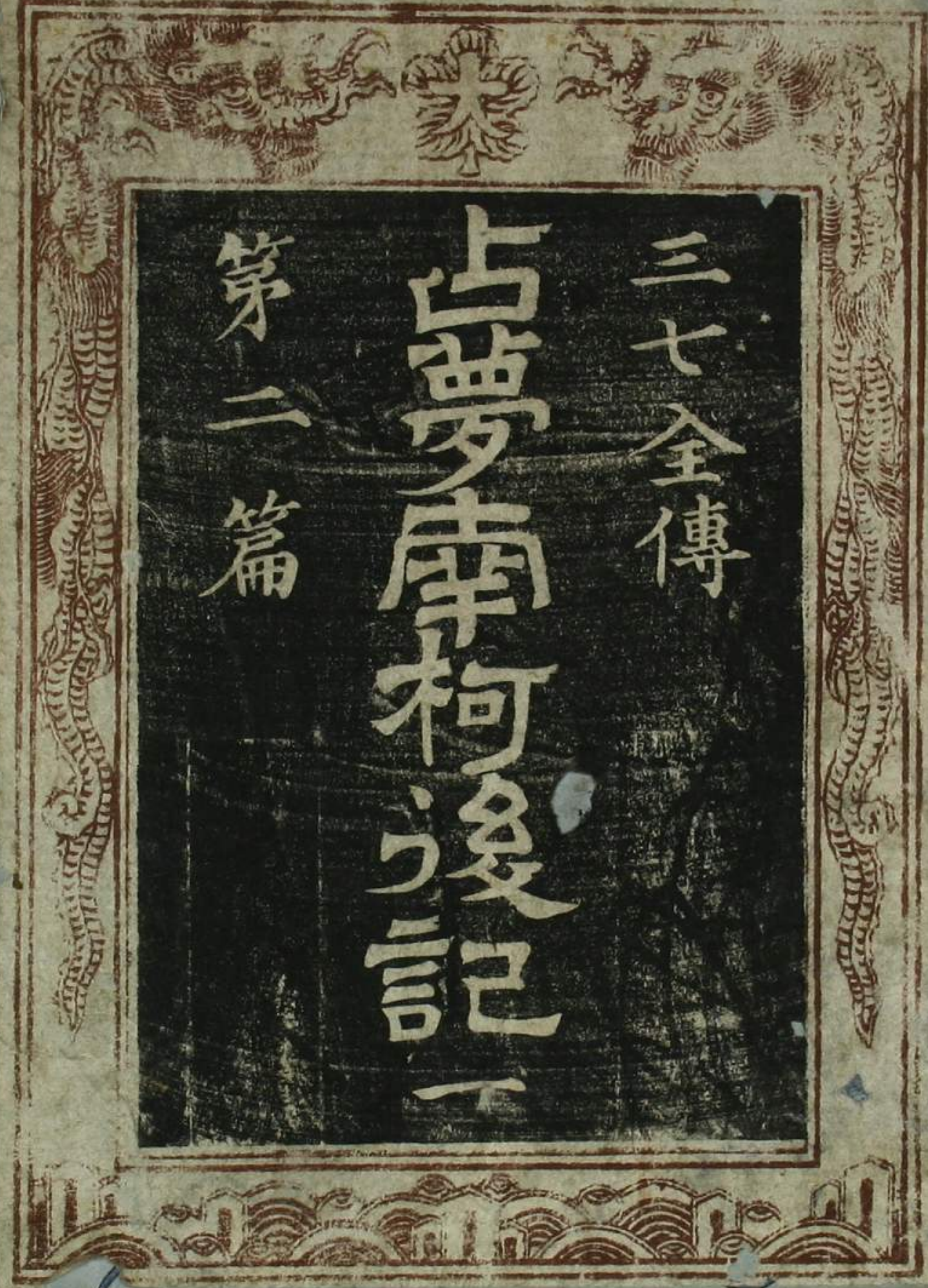




A 1 2 3 4 5 6 M 8 9 10 11 12 13 14 15 B 17 18 19



第二篇

占夢庫後記

三七全傳

特別
^13
3148
8



0 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24

特
3148
8

隱居情



開元七年，道士呂翁者，得神仙術，行邯鄲道中，息邸舍，隱囊而坐。俄見少年盧生，衣短褐，策青駒，亦止邸中。與翁言笑，盧生顧其衣裝，襲乃歎曰：大丈夫生世，不諧困如是也。翁曰：子談諧，方適而歎其困何也？生曰：吾常志于學，自惟青紫可拾，今已過壯，猶勤畎畝，非困而何？言訖而目昏思寐。時主人方蒸黍，翁乃探囊中枕以授之。曰：子枕吾枕，當令子榮適如志。其枕青磁，而竅

同州一
本作回
列

其兩端。生俛首就之。見其竅漸大明。乃舉身而入。遂至其家。數月娶清河崔氏女。女容甚麗。生質愈厚。明年舉進士。登第。釋褐。轉渭南尉。俄遷監察御史。轉起居舍人。知制誥三載。出典同州。遷陝牧。移節汴州。領河南道採訪使。徵為京兆尹。是歲神武皇帝方事戎狄。除御史中丞。河西道節度。大破戎虜。歸朝冊勳。恩禮極盛。轉吏部侍郎。遷戶部尚書。兼御史大夫。為時宰所忌。以飛語中之。貶絳州刺史。三年徵為常侍。未幾同

臧懋菴
字偽

中書門下平章事。同列復誣與邊將交結。圖不軌。下制獄。中官為保之。臧死。投驩州。數年帝知冤。復進為中書令。封燕國公。生五子。有孫十餘人。後以年逾八十病薨。盧生欠伸而寤。見其身方偃於邸舍。呂翁坐其傍。主人蒸黍未熟。生蹶然而興曰。豈其夢寐也耶。翁謂生曰。人世之適亦如是矣。生憮然良久。謝曰。夫寵辱之道。窮達之運。得喪之理。死生之情。盡知之矣。此先生所以窒吾欲也。敢不受教。稽首再拜而去。

右沈既濟
枕中記

蕉窗月を引て景壁を射ふは秋蛩
膝鳴も吾衣のうすは驚く林妻の
まじも塵を拂ひて架の書を積ども披くと
稀むこの時也客乃柴刈を敲くは酒の燼
邊は暖るれし睡らんとするふいと寝らるる机
隠る坐し天を仰ぐ嘘次はまじの綯を衣
ゆるが故に形枯木乃如くは心死灰は似むと
いづれを聊吾生を樂むも足まじと俄見浮雲月は

顔一も孤燈の明かりを托月え檐馬稀は
夜のいづ深くはみぢは是馬猿を靜慮
繋る聲色の欲もいづれをいづれを智を忘る
と能は次鵬鰓を道送は伴ふも小大乃利を幸
すやいづれをいづれを捨ると能は次硯は呵し
筆を弄し意を費し識を醸は羅貫三世
乃瘡紫女墮獄乃悔豈身後の談らんや生涯
風流文墨乃奴との因果麻生よりは後書を
綴るを以て終日不言は是瘡は似るはわら

鬼話を演輪回を説是墮獄の悔ありや
父母吾を生むは此堂如此して身を清むを
もて可少きせんや勢已しを得ざるの書賈
木蘭堂常南柯夢の続編を版せんと請ふれども
彼篇ハ既全く局を結了絶く一物を送らば
を續とも勞て切かし夫流竭て飲をせむ
と此を新井を空牙より月没て明を求む
更は燭を点するは次不如と推辞を聴
願は彼木葉書賈ハ曩は南柯の下は坐して偶

鬼を獲きしはもの之宣ひし株を守るとして
守るの癡あるはありや若し是の株を作らば
遂は編を嗣業を脱してとてその欲は充て
南柯後記との亦是再寝の夢物語を鄭の
新者が鹿を擬して若那軒の客人も書
夢殿の先生もこれを取らんと書賈ハ必鬼を捨
亦いちもや鹿を獲つて
文化辛未立秋の日
曲亭主人識



南柯後記卷一

占夢南河後記總目錄

前世四冊

南河の接木

千日夢後

詐偽の送葬

冬田の晩稻

遠山の夕霞

雨後の月魄

木末の心滴

池の中嶋上

池乃中嶋下

浮名の孀丈

後帙四冊

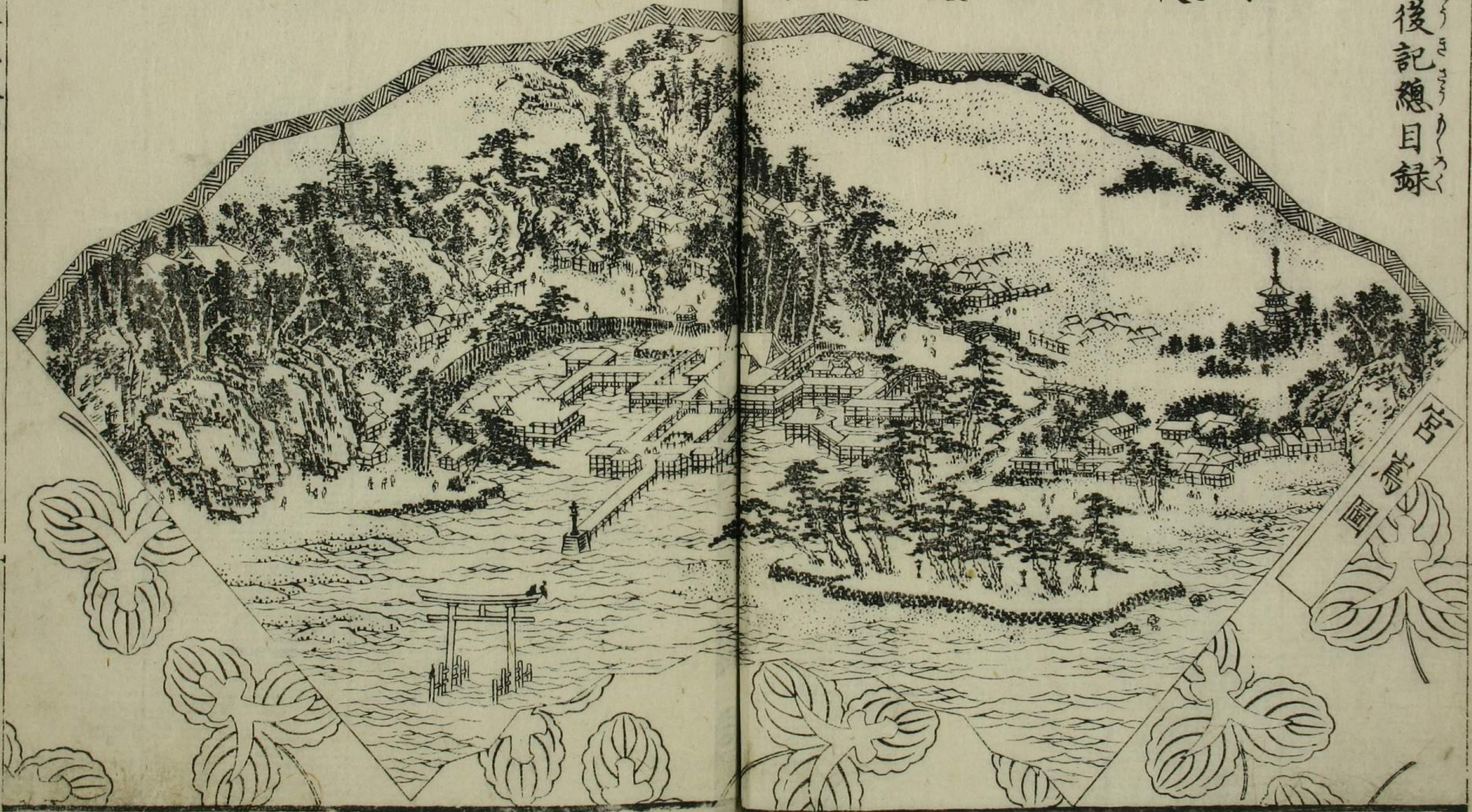
秋西の笠松

羈旅の新関

暑の夏花上

暑の夏花下

天神川の滌



占夢南河後記總目錄

新嬰玖憐安條



一念精誠半楚雲青天
白日更誰論無端草木
收殘濕雲驚鴛鴦
綠野村

あつ倉車人

お通

南河後記卷一

過去の菴主

槐樹の手斧

夜川の野航

合歡の花桶

柴構の雨笠

統計八卷此

間又釐秋雨

笠松為上下

題目二十一

今釐帙為上

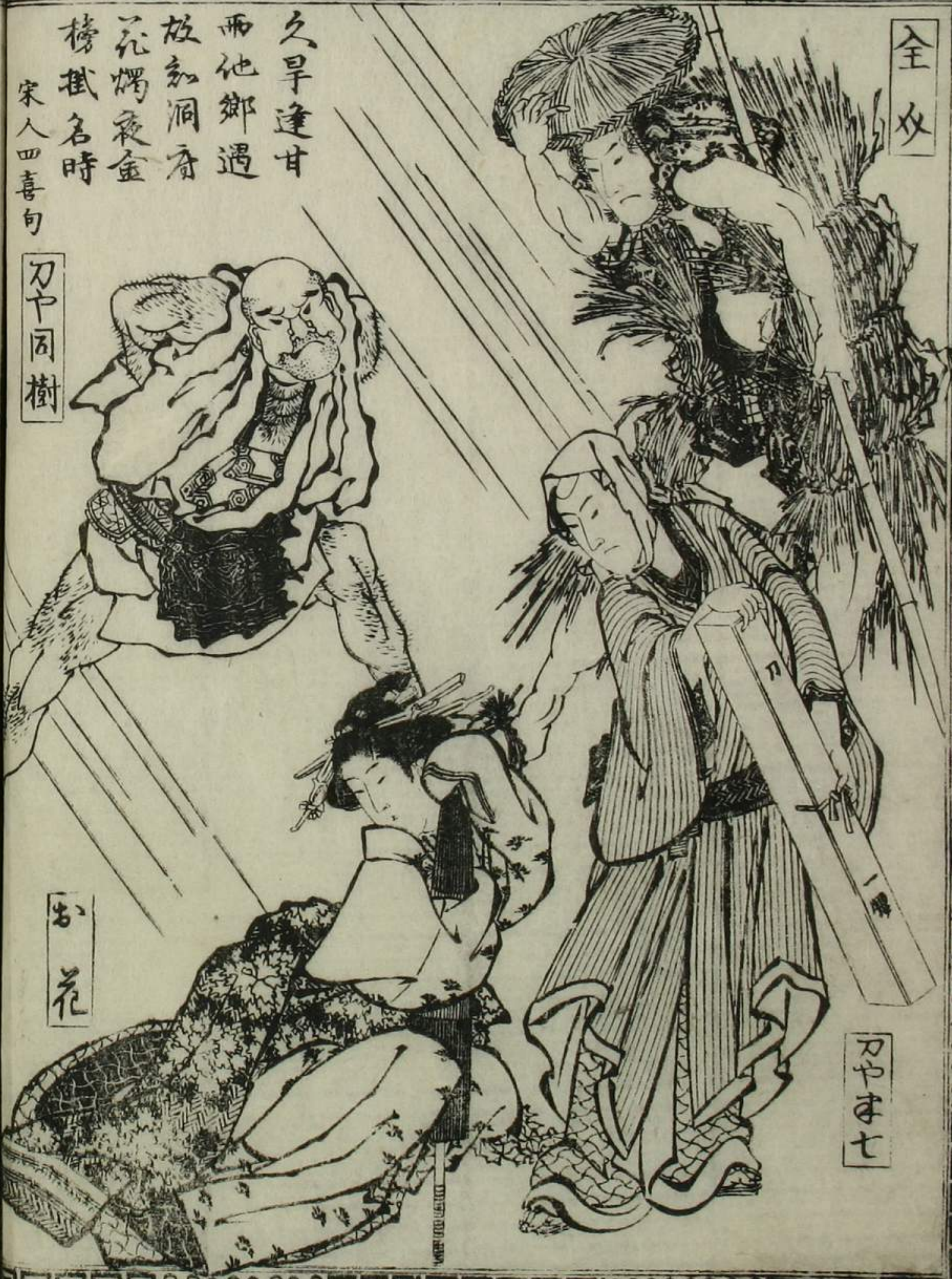
下各四卷

全部目次果



周防山口大内家城下圖

全女



刀やま七

お花

刀や同樹

宋人四喜句

久旱逢甘
雨他鄉遇
故知洞香
花燭夜金
榜掛名時



信清軒

あつ山

夕きららの

五り

森子雲

とんく

松の下産

津々

とま五郎

松平平也

年紀

永正元年 続井順昭米谷山の老楠樹を伐し丹波都柱死する時羊七の十歳をん

八歳之 永正二年 赤根羊六が妻輪篠病死を時小羊七が羊十一かさんか羊九ツ便及

誓姻の礼を擬を是年の冬かさん故ありて笠松平三小養のれその後誓伎ありて名を三

勝と改む 永正三年 園花七歳その父典膳督縁を羊六と議を 永正十二年 羊七廿二歳園花

十六歳春誓姻の礼あり夏又至て続井吉推近臣赤根羊七今市全八布袍蝶九郎等

を初て備又洛小松が時小吉推廿二歳園花が兄曾太郎と同庚之の秋笠松平三脚平

足平を殺して奈良(走)るす七三勝白河小再會あり共亡命之の時三勝十九歳

永正十三年 三勝二十歳近江の女賀の莊小女児か通を産む 永正十七年 羊七廿六歳

旅店小信濃の番掛又病む時三勝廿四歳女児か通五歳 月十八年 亨禄元年 改元前之

亨禄元年 今茲十二月上旬厚倉二郎大夫暗小金を羊七小ふかある月七日の夜羊六

敷浪ホあゆぐ子小代とて浪花の千日墓小自殺し 蠟松典膳致仕入道久時小羊七廿七歳

三勝廿五歳曾太郎廿六歳園花廿二才か通六歳あり 以上前篇

亨禄三年 三勝廿七歳男子以大和産むの時父の才七羊之進と改名してその子

を羊七と名つ 亨禄四年 園花廿五歳らゆめて男子を産むらくられを平作と名つ

天文元年 三勝亦男子を産む陶五郎隆春をん 天文七年 十一月七日典膳入道病

く家小死ん今茲の冬曾太郎亦その妻厚倉氏を喪ふらん 二郎太夫が女児 天文

八年 蠟松曾太郎が女児初花八歳ありて玉枕御前の侍童小羊りつゝ初花が妹夏山

時七歳叔母園花を養ひ 天文十四年 続井順勝の息子 蠟松十四歳上洛

一入道黄門一忍軒の養女とある羊之進が長女か通との羊廿二歳 蠟松小後て洛

へ赴く 天文十六年 蠟松十六歳今茲大内家と誓縁整へり 周防山只赴く厚倉

二郎大夫父子か通隆春仙聖炊粟本られ小後人 天文十七年 赤根隆春陶暗買

の養子とありて陶五郎と梅は是年笠松平三外孫平作を養ひ家を嗣せ曾太郎が

二女夏山を平作が妻とらん十月六日小羊りつゝ平三病死ん同月十日厚倉二郎大夫周防

の山只病死んその子集人友善出奔して往方とらるゝ 天文十八年 笠松平作が妻十七

歳今茲田子を出産しくられを平太郎と名つ 天文十九年 赤根蠟松の両家志を同

ともありゆひて大内家の居城なる周防國山口の御鶴の嶺あり花の御所入興
 志のひより。既又四年の春秋を往く。今茲いよや十九才もぞけりゆふれ
 かうりて続井の執権厚倉二郎大夫友春の槐姫小傳きて周防國(越)か
 近下ろるる人の教小のまにりれば西國までも大和まで。これを惜ぬりのい
 り。あつ小厚倉が子小牟人友善とありの父とももに大内家おはる程ふあふ
 ちるひのまて忽比山口を逐電し。三年以來往方たれど。その子の父小以ざりて
 とて彼を識るりの亦おぼゆ。そ亦赤根七が女兒お通の稚少たりり召れて槐
 姫の陪童小より仕る小自然とまをゆた歌をよみあらひて秀歌をさく女
 ちらねが小式部の内侍の童だちありも。ゆくやありりんとて奇しりの小道人を
 いりる。ゆくか通の槐姫小冊たり。暫嘉洛小ありし。持明院殿小學び奉
 ず。歌道の興美を究つ。身陶五郎りるとも小姫君小俱し。まわし。周防

國(越)大内家小扈從せり。先三勝の更又男兒二を生之園花が腹
 中も男兒一人を奉たり。さゆわらふ七の年之進と改名し。三勝が腹あり長男とす
 七と名告らす。今茲いよや廿二歳あり。次男も五松平之が女を嗣せて平作
 と呼びたるが。後の才七の年只一ツのあつて二十あり。第三男へ槐姫小冊れて
 西國(越)か。後のおらむも大内家第一の執権陶権頭晴賢が養子とあ
 りて陶五郎隆春と名告るりの。十九歳ふぞありぬ。さればお通と後の才七と
 陶五郎が母の三孫小。笠松平作が母の園花あり。彼未を異母兄才あれが心
 ざのの怜悧と。おらむ勝らど。これやらの忠臣孝子の蘆あり。とて衆人小愛ら
 母まわれぬでなれ群のまうら。續くりのうら。盛れが。辱る浮世小。園花が又。松
 典膳入道夢幻斎い。ぬる天文七年十二月七日小頭小病。往生の素懐を
 遂笠松平三のあつ。十七年の十月六日小老病身小通。里あがら。苦悩をを不

えんぐ睡るが如く身まありけり。されば三誘の裏小曲信が養女とありて羊之
 が正妻たり。二園花の平三を又とく。赤根が側室小あり小けれど莫逆異父
 の姉妹あれは送小姫の姫とむ。娥皇女英の賢るもの。あや母と入の笑のめれ
 貞女の本も引あるべし。あや平三世小在しと外孫のか通を養ひらうて
 られが小女婿を擇と家を嗣せんとす。小才を慕ひ色小愛媒約りく
 誓縁をいひらうりの少あらねどか通の才学せよ誘えり。見識男子由
 たら誘えり他人と苦樂を共せんをねがふと給事して身を終らんとて
 まきく西園(妙き)一平三之忍心屋を失ひ羊之進が二男平作の園花が腹小
 いふたれがふかを嗣せり便ありとてこれをまきく進小とけ。主君小才
 えあけり免許を父母の園花りうも小彼平作を迎えり。か家の家督
 と定め亦蛾松曾太郎が次の女兒夏山の葉花が存す。平作とて

後母昆弟あり。年の紀も似つらぬ夫婦あるべし。とて豫そ曾太郎小相
 て平作の十八歳夏山が十六歳との年の春終に誓烟を整し。いづれ
 妾婿のいひをありが長年の久平三の身ありぬわけて平作夏山の慈母園花
 小孝心厚く。妹夫の契も厚かりて男見をまきく。平作を平太郎と
 名づける。いと健中小生たし立寄り移りもあり小けし。赤根蛾松木が飲び
 とつらら葉花が存小初孫あれは只是堂中の殊挿改の拓と慈愛を塵と
 こそん娘育り。さる程に蛾松曾太郎の父の典膳入道が世に逝く後親と
 も憑とひひり。厚合君二郎大夫の周防の山口(妙れた)彼処小く身まきく。その
 子車人友善の逐電して往方たれど。とす。つらら。惜とつ。つら。一巳の
 才学をりてせり同僚赤根羊之進り。あや小。あや人の舊規を温政事
 小私るあや直死りのの奉られて。枉らるりのもの。その非を改め。鄰國まきく

南柯夢をさぐる人。或いは忘たるもあらば。前編を熟覧し。更なる條
をさぐるに。耳を塞て物くらみ如く。競とせども。言もをさるれば。分るべし。

千日の夢後

時、天文十九年庚戌秋九月の下浣あり。つ。今茲十二月。ち。め。の七日。赤根
半六と交浪が二十回忌をむくた。ふ。蛭松典膳夢初齋が十二回忌。並。赤
平三と厚倉友春が二回忌。ふ。相。當。せ。り。この諸。天。位。の。赤。根。蛭。松。西。家。の。赤。平。
親。あり。男。あり。恩。人。あり。就。中。半。之。進。と。二。勝。の。昔。勅。小。元。後。と。親。と。親。
と。か。候。小。命。を。墮。し。子。代。と。あ。ら。ん。後。の。后。ま。で。も。大。和。小。名。さ。る。妹。と。夫。の。あ。い。
ら。ぬ。契。を。結。び。を。え。て。赤。の。榮。を。子。向。小。せ。と。あ。ら。ん。も。送。ぬ。ひ。一。言。の。赤。高。丸。
父母の恩。や。や。と。お。の。山。を。亦。十。づ。積。り。思。ふ。も。これ。小。比。ま。は。る。低。し。せ。め。
と。さ。浪。花。一。赴。れ。る。法。善。寺。の。千。日。墓。小。追。善。の。庭。を。ひ。ら。れ。衆。僧。の。誑。徒。小。

弥陀佛の引接をねがひんと。半之進の豫より。三務園花曾方郎亦と。の。の。
を。相。議。し。が。追。善。の。法。蓮。の。稱。月。又。あ。ら。ん。と。い。ふ。も。年。極。ハ。殊。々。ら。し。公。教。も。
繁。く。且。春。の。常。々。暇。有。加。補。親。族。齊。一。彼。如。一。赴。ん。小。平。作。事。を。
殿。の。近。習。な。ま。君。邊。小。事。る。身。の。う。や。小。要。時。の。後。中。の。れ。時。を。嫌。ひ。身。の。
暇。を。ま。じ。あ。ら。ん。ハ。便。あ。ら。ん。母。り。余。十。月。の。ち。め。の。六。日。ハ。笠。松。阿。翁。の。三。回。
忌。あ。ら。ん。一。切。の。追。薦。供。養。を。さ。ら。し。ま。り。は。て。執。行。ん。と。さ。ら。め。れ。と。曾。太。
郎。が。あ。ら。ん。と。主。君。伊。賀。公。の。事。の。趣。を。ゆ。え。あ。げ。と。あ。め。く。行。装。を。
あ。せ。り。時。小。十。月。二。日。を。め。て。首。途。の。日。と。定。り。く。園。花。の。子。笠。松。平。作。と。羽。衣。
の。真。山。孫。の。平。太。郎。亦。を。付。ひ。蛭。松。曾。太。郎。ハ。玉。枕。御。前。小。給。事。す。る。長。女。初。
花。を。さ。ら。ん。の。暇。を。ま。じ。と。い。ふ。を。携。り。朔。日。の。薄。暮。ら。し。是。彼。奔。一。
半。之。進。が。宅。小。娶。ひ。來。て。翌。日。の。せ。小。啓。行。せ。ん。と。甲。夜。と。さ。ら。ん。の。主。夫。婦。

朝市夜店絶間あり。民の寤の賑ひを語り、後には、落てい文心、のりし。
 華洛の人も、縁を求め、母ならの蔭を頼んぬ。山口、引移さば、西へ
 と入る所の客店、賣家、貸坐、舖小。あゆみ、膝を容れ、ゆり、ゆれ、娘の小娘、父
 小、入る、入道、黄門、一忍、軒も、華洛、小在、在る、あひ、あひ、いと、健、くど、お、か
 さらぬ、汝、弟、陶、五郎、り、ら、も、かん、迎、小、あ、わ、る、べ、その、亭、小、大、和、一、由、より、て、館、の
 安否、を、問、や、わ、ら、せ、縁、由、を、も、ま、う、せ、と、を、娘、の、仰、み、う、の、ゆ、り、遠、死、騎、縁、を、隔
 る、れ、道、づ、れ、の、身、あり、赴、く、ま、た、の、故、郷、を、と、只、竹、と、あ、り、と、が、れ、て、一、昨、華、洛、茶、着
 一、忍、軒、の、あ、り、と、娘、の、消、息、を、ま、わ、る、と、か、飲、び、あ、る、大、く、あ、る、行、装
 何、れ、の、ふ、ら、と、す、れ、と、日、子、経、あ、ん、その、向、は、汝、を、大、和、ゆ、れ、ね、と、直、い
 す、ふ、と、の、の、も、取、あ、る、直、に、ま、つ、れ、ば、案、内、も、ま、う、と、び、も、く、ま、う、と、と、あ、り
 一、五、一、十、を、物、や、と、は、ば、衆、皆、中、に、ゆ、や、飲、び、父、祖、の、お、小、菩、提、を、吊、ひ、直
 善、の、法、を、用、ん、小、親、族、の、中、入、と、ま、ま、も、缺、あ、ん、み、の、本、意、あ、る、と、今
 招、ん、水、陸、遙、く、隔、た、る、お、通、陶、五、郎、ま、ま、つ、る、諸、君、位、も、と、ぞ、満、足、小、お、不
 す、ら、ぬ、亦、身、君、の、賜、あ、る、我、公、田、小、雨、あ、り、て、我、私、よ、あ、る、ば、せ、と、あ、る、と、平、い、よ
 べ、ら、ん、願、小、稀、あ、る、幸、う、な、と、い、と、他、あ、る、と、数、待、は、か、通、の、栄、あ、る、と、し、つ、六
 の、歳、と、ま、廿、八、の、り、あ、る、と、い、と、忘、さ、ぬ、公、の、分、彼、女、さ、ゆ、の、年、回、の、豫、て、傳、あ、る
 り、の、あ、ら、百、里、小、あ、る、西、の、稍、盡、妙、と、され、雁、の、翅、を、借、り、て、頓、は、音、耗、も
 け、か、く、大、和、小、あ、ら、が、ら、ち、も、揃、あ、る、墓、系、系、ま、す、と、い、と、お、ひ、け、り、じ、り、ま、の、の
 け、あ、ら、ね、と、幸、極、の、日、を、この、月、小、う、り、む、あ、ら、ん、と、あ、ら、な、ま、つ、る、も、ま、ま、の、の
 が、身、小、ね、あ、る、と、い、と、を、は、あ、り、と、守、く、進、い、お、通、を、と、う、つ、く、嘆、息、一、と、お
 り、も、ら、ぬ、ま、り、れ、と、い、と、祖、父、祖、母、を、え、ん、も、と、ら、ぬ、お、ん、身、の、六、才、の、冬、あ、り、じ、れ、ば、
 その、面、影、を、夢、ご、う、も、認、て、や、め、る、忘、さ、や、た、ら、る、と、向、父、より、も、向、る、女、見、の、

その面影を夢ごうも。認てやめる。忘さやたらると。向父よりも向る女見の。

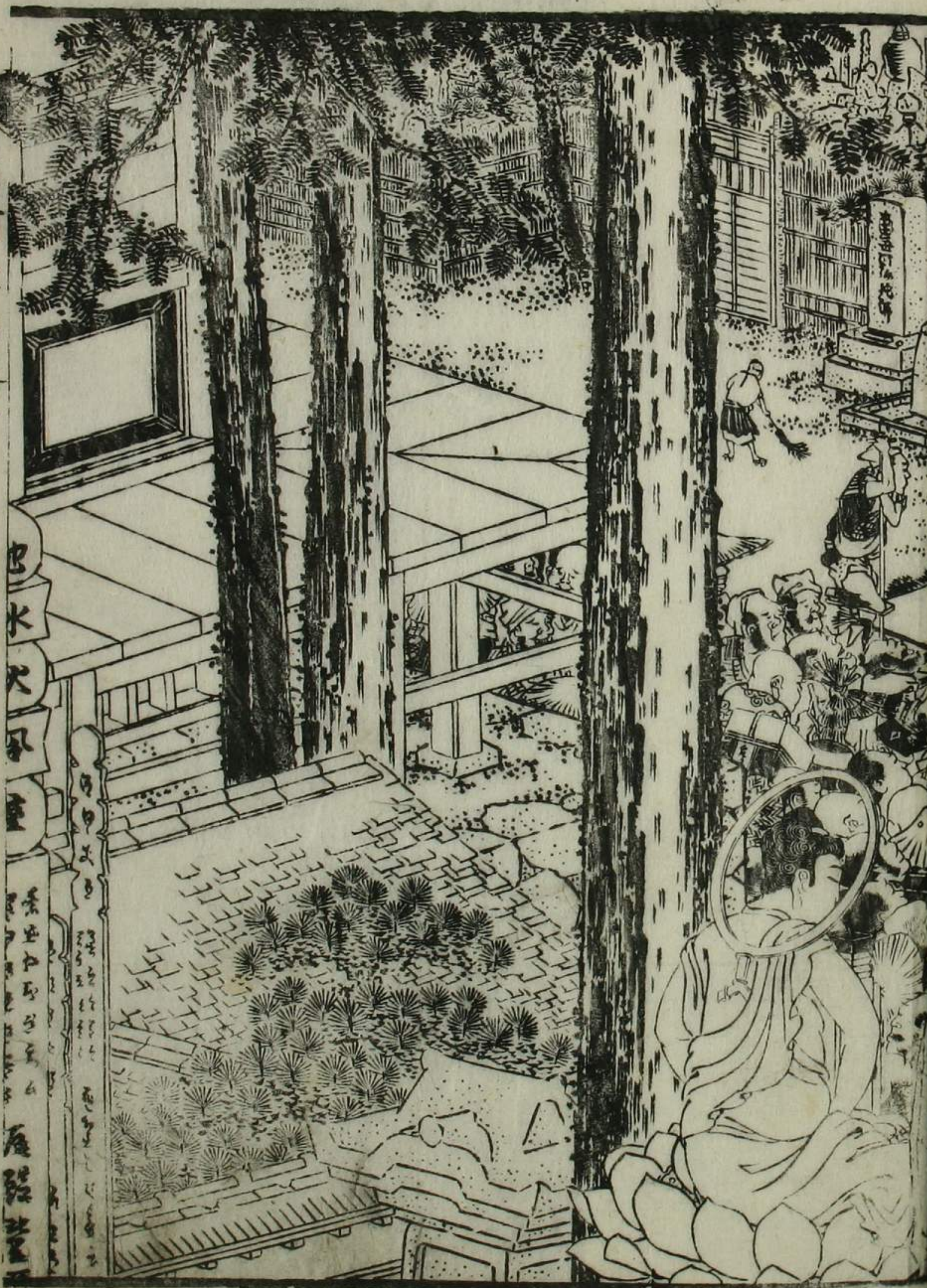
涙のらへみたり。胸をさすを推量る。之務ハ園花とどど面をわらへは。
 りられた涙の曾太郎も鼻をうらも言後とせし陶五郎をつくとく。
 小膝をすめ四年ふぬる不隆春はつれ男ありあひたる。身切つて
 眼さの丸あらざる。未憑くくええらる。養とてつるもあさやとひあから。
 いまはほむらと由断く。陶氏小先せらる。曾太郎が不幸中。却ち身が
 幸之彼推頭晴賢ぬ。大内第一の執柄中。周防富田の城主なる。所
 帯をばし九牛が一毛もあは足らば。貧福ハ天のまん不化家を流といひ
 あら。季子あり。牧同抱も立持する。されたり。稱賢すれば陶五郎ハ
 扇を勝るとさる。小父の言茶も是れは。美を結びと。父とあ
 の尸族と徳行をて。擇め。ゆる。緑の身命を論ど。君命黙止せ。て
 陶氏小難ると。是全く隆春が運の究めと。とひ。言可惜ハ申條あり。

ひと。大内君の良の鼻祖ハ百濟國王東明八代の後流。餘璋王等三の土
 子琳璋といひ。人唐の乱を避る。周防國依波郡鞠生の浦の妻。良濱ノ
 未王留る。実より。大日本推古天皇の十九年のゆくと。すえたる。亦新撰姓
 氏録小載るところを考る。小母々良公ハ。御間名の國王。余利久半王より出た
 王欽明天皇の時。天朝小投化。金のま利と金の年居を献る。天
 皇特小譽させ。あひて。妻々良公の姓をあふ。ええた。あれば。是傳り所
 両説。う。いづれ。是あ。を。或ハ。琳聖王子七代の後長門守正恒
 り時朝廷。あて。彼先祖の末。ま。地の名。ふ。て。妻々良朝臣の姓
 とも。是より。京子を大内と。称たり。あて。正恒七代の後流。左京権大夫義
 弘朝臣周防國山口小居城。長門石見豊前ホの國を討。明
 徳の乱。小軍功あり。故尔足利殿。勸賞。和泉紀伊の二不國を加

南村奇書

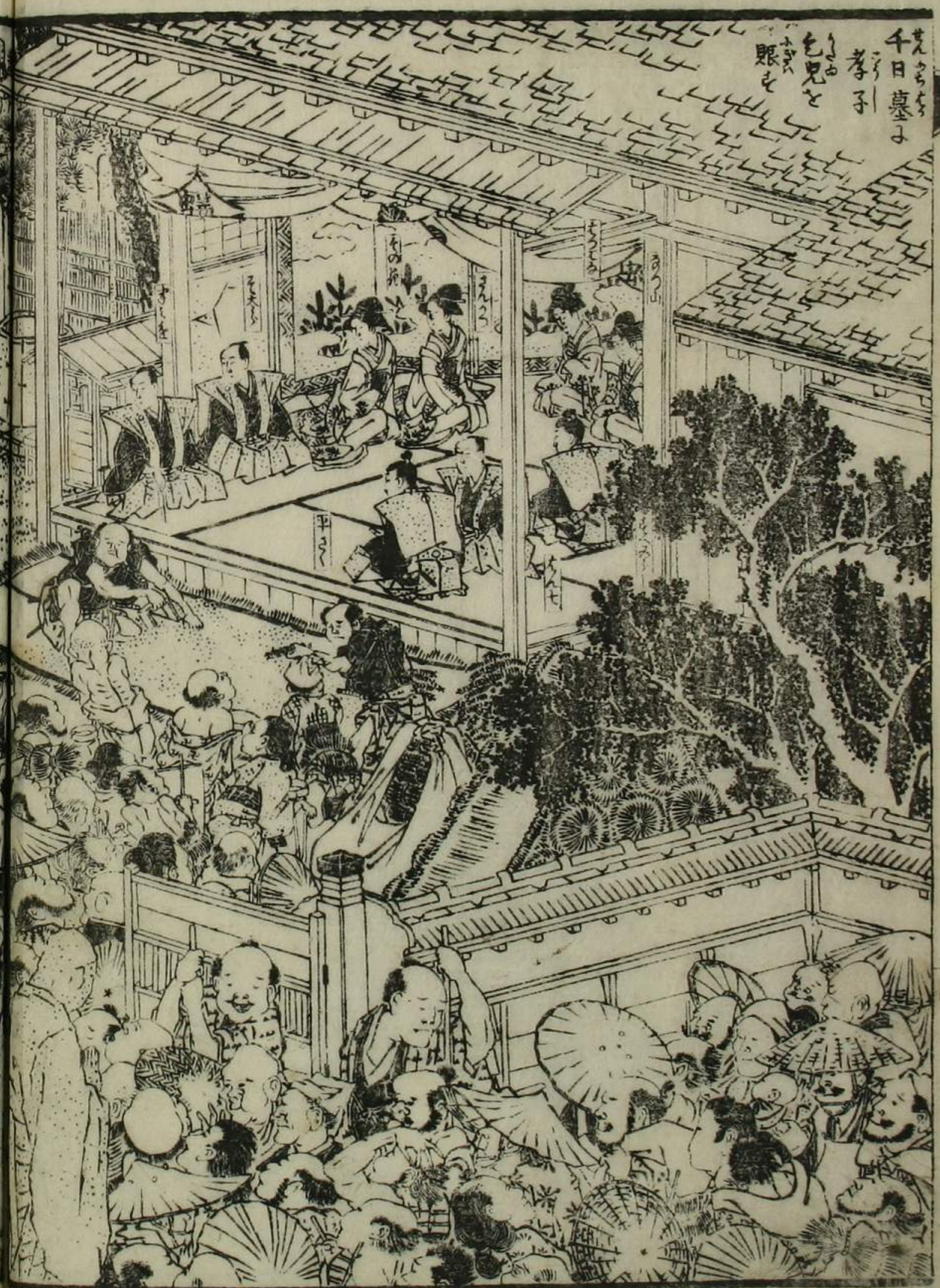
増し。義弘も賜ひし。泉別堀小居城せり。あつたれど義弘只管武功日
 誇り。足利殿を蔑如し。終つて鋒を争ふ及び。散る小戦ひ負態
 永六年十二月廿二日。和泉路より討死し。あひぬ。是も足利殿その先
 功を捨あらね。子孫所領の地をうり。あつた義興の時に至る。又武功あつた
 系。後二位小叙あり。就中當主義隆卿の武略又祖ゆりやま。西教个
 國を伐ち。奥刺内裏造官の料物を献す。三位の侍従兼太宰大
 貳小補せらる。頼小進。後二位の兵部卿ある。亦。養父陶権
 頭晴賢の主君大内殿と同祖たり。往古百済の琳聖王子投化して。考良
 濱小著船のとれ相後ひ未たり。二人の臣下あつた。これ陶山口の先祖あり。主
 家へ。小北八代も家も又北餘代氏といひ。福といひ。肩をばる。りのあつた。れど
 驕るとは。久し。かつ。を。明白。あつた。隆春が歎た。子。を。傳。す。く。晴賢

の養父と。陶隆房入道。道喜。脊小。只。ひ。の。実。子。あり。く。陶。立。即。隆。豊。
 と。い。ひ。ち。り。又。の。道。喜。へ。寫。田。若。山。の。城。小。隱。居。し。五。郎。隆。豊。の。山。口。小。あ。つ。た。
 一。日。隆。豊。寫。田。小。い。ゆ。た。父。の。妻。否。を。伺。ふ。序。よ。主。君。義。隆。の。賞。罰。非。法。な
 る。す。を。演。す。の。さ。勿。小。い。ゆ。た。父。の。道。喜。つ。と。と。す。て。あ。つ。た。の。り。の
 年。二十。内。も。足。り。主。君。を。蔑。小。と。る。の。さ。あ。つ。た。死。る。べ。し。謀。
 殺。を。づ。れ。り。の。と。き。密。小。家。謀。小。ら。る。ゆ。さ。情。あ。く。由。隆。豊。を。刺。殺。し
 たり。と。あ。ん。こ。の。を。傳。す。く。り。の。式。ハ。堂。を。拍。く。擧。げ。嘆。息。見。透。思。ひ。あ。り
 と。も。子。を。殺。さ。る。へ。り。あ。つ。た。小。及。つ。善。と。も。惡。と。も。定。り。あ。ら。ぬ。子。を。主。君
 の。お。小。殺。した。道。喜。へ。稀。ある。忠。臣。と。も。只。頼。小。答。る。も。あり。式。ハ。胃。を。う。ち
 頼。め。父。子。の。道。ハ。天。性。あり。あ。つ。た。小。一。言。の。下。小。是。非。を。決。す。く。忽。ち。其。の
 子。を。殺。す。道。喜。か。ひ。さ。る。虎。狼。を。猛。し。彼。の。子。を。も。愛。せ。ん。と。つ



此處有松竹梅
 三友之景
 此處有松竹梅
 三友之景

孝子
 千日墓子
 孝子
 千日墓子



宗族母黨團坐して庭の落葉とよを積る四年未し方のおぼろ小冬の夜
 ろれど長くもかかえど。鶏鳴曉を告小ければお通陶五郎の浴にて衣服を
 整伊賀女玉枕御前のきりもく井の館小艇候し。入道黄門一忍軒の
 迎う。上洛あるよりおぼろ。二位中納と槐姫の消息を進らされバ伊
 賀女夫婦彼消息をのらあり。西國の。姫君のうを問せあひて酒飯を
 あつ。善洛の序の。春さあがひりせられあん。多よこまへ苗ぬあり。
 返苗らる。但せなるべし。獲る返書を賜。ぼ法善寺請の。をさ
 ちりて退出つ。その時日ハイ。西小傾たよりれど。羊之進曾太郎ハ彼亦を
 待けて足弱を。橋よ乗。一族主後五十餘人直さに大和を起行。その日ハ
 三四里が。移し宿を求め。次の日浪花へ赴た。後館を定め。喪皆法善寺
 へ請。寺僧出迎。客殿へ誘引。法會の。豫の消息小。らて。

ゆひぬ施初の假屋ハ金毘羅堂の右子の。小修理。り。おぼ長途の
 疲勞を勸。と信。ら。叮嚀小款。約。は。當。下。羊。之。進。ハ。懐。下。ら。と。
 二枚めまりつ。だあり。なる。幣。よ。法。号。信。名。年。月。を。書。記。を。と。り。出。す。押
 印。つ。寺。僧。又。指。示。し。ら。る。諸。夫。位。々。俗。名。亦。根。羊。六。蝦。松。典。膳。が。妻
 敷。浪。と。寫。し。た。る。某。が。実。父。と。姑。ま。り。今。茲。十。二。月。の。七。日。ハ。二。三。回。忌。小。相。當
 且。又。夢。幻。居。士。と。字。せ。り。ら。れ。る。曾。太。郎。園。花。ホ。が。父。典。膳。ら。れ。こ。れ。ハ。今
 茲。の。十。月。七。日。を。十。三。回。忌。の。稱。月。と。ん。又。俗。名。笠。松。平。と。字。せ。り。三。勝。を
 花。ホ。が。義。父。と。る。が。の。月。六。日。ハ。三。回。忌。の。稱。月。と。又。俗。名。厚。合。君。二。郎。大。夫。友。春
 と。字。せ。り。ハ。お。お。の。恩。人。蝦。松。氏。の。お。ま。の。男。あ。る。が。これ。も。の。月。十。日。ハ。三。回
 忌。の。稱。月。と。ん。又。俗。名。丹。波。都。と。字。せ。り。ハ。之。勝。が。実。父。俗。名。輪。篠。と。字。せ
 り。某。が。實。母。と。の。中。羊。六。と。敷。浪。の。墓。ハ。當。寺。小。の。を。これ。を。法。會。の。心

位とらふの餘多し大和の没し。厚倉の周防の山口小病死せり。但
 丹波郡の没し。四十二年。論後四十一年より久し。五十回忌との
 法會小つり。共々回向あり。と緯詳に演説。施物の目録小つり
 添く。曾太郎の私卒。西之布施物を運んで。処せられたる
 安排。寺僧ホ多し。受りて。方丈運び納る。住持の上人立出
 追薦の志の篤れを唱賛。長途の疲勞を同慰めぬ。され。後
 の款待へ。書もつ。さぶ。四月十日。三日あり。法會の翌日
 三日。定め。清僧二十員を延請。経巻の紐を解む。わけて
 赤根。踐松の一族。旅館小立。その夜より。精進。素香。衣履を
 較正。毎日。法善寺の法筵。小列坐。経を聽。字人。既。小結願の
 日。小つり。小つれ。法師。法坐。小著。佛法の不可思議を説。施主檀

越の功德を演め。僧を和讃。樂童管絃を奏。の
 乃。善盡。天。小影向。幽。得。脱疑。ひ。を。見。え。し。や。て。法
 會。果。より。施主の男女。打。つ。れ。て。施行の假屋。より。支。本。奴。隷。前後
 小。警。固。推。高。く。積。累。たる。四。十。六。俵。の。白。米。十。二。回。と。廿。回。の。數。小。あ。り。小。貫。文
 の。青。鈔。三。周。七。回。五。十。年。の。忌。日。の。數。を。表。した。り。彼。此。より。聚。合。未。て。今。り
 今。と。相。対。する。見。も。蠅。の。如。く。小。群。と。て。或。の。嬰。兒。を。肌。に。著。老。たる。を。扶
 引。望。々。よ。家。々。よ。呼。子。鳥。只。惜。と。餌。よ。求。食。覆。車。の。前。の。村。雀。貫。啼
 す。小。羽。鳥。燕。口。の。敗。衣。を。あ。り。こ。ま。れ。一。并。小。弥。陀。の。光。も。錢。亀。の。手。足。隙
 ろ。た。福。徳。の。三。歳。鯉。の。袖。こ。ひ。小。犬。も。ま。ま。如。是。畜。生。諸。鳥。跣。虫。江。河。の
 眞。實。悉。皆。成。佛。平等。利益。と。異。口。同。音。唱。へ。は。ゆ。々。見。を。二。傍。を
 づ。と。えて。ち。ひ。づ。の。信。濃。あ。る。皆。戀。の。旅。の。宿。小。病。卧。せ。し。夫。小。ひ。れ。て

弾く三絃の三どらののろろ若くも人の門出なち剣さめた月ののせをまをふ
 こまも乞食をたどりしと忘れぬ身の幸の思がよあする袖の雨立屋を裏
 ヤとゆれつ。貧くもあけ浪花浮け人のうへあらんとらひどもそれこひ
 赤根も共は嘆嘆せり。この程も既も果へる。要皆假屋を立出つ。
 冬枯れ草の原あはる名若むん墓あり。そらどや今も夢ふら。似たる夢
 うみ夢の迹二十三年十日のころあげぞやまをる。羊を進へ傍の石塔は
 指し三勝をえあつてや。亨禄元年十二月七日嵐雪月照信士月
 雪妙霜信女一蓮託生俗名和列五條新町赤根羊七美濃屋三勝と彫
 著しつれとん身とそめ夜さす。この処も死ねおれを厚倉好し諫免
 られ像見おりの藁髪と假髪を瘞し標石も送ら夫婦が名の憂とか
 き口説く夫より三絃のたれをせよあは三勝の園花とらど。まは卵塔とこ

あうえう歎息し。いひのうなどその夜さす。親と親子をまのし。南の暮
 せ。あとう紙の送書へらふ貼る。あはひ。悔さうらぬ水茎の迹吊今日
 の手向草枯ゆとれの面影の今えららふ。作らじ父を異よする同胞が。
 親の非業の死に異あらで。いれも過世の引の山路は寄く芥の柄小移れて
 楠の葉と消成を浪花津の蘆の葉枯く霜の夜の月の。劔つらぬ
 むれく。い終をとりあひ。親をどかす。死時の憂あじ。五穀多う。物足らぬ
 ともあらぬ。今の貧乏昔が恋し。あうらぬ。をい。くを涙の。誠ある。
 お通も。験押拭ひ定ふ。あはえ。ゆらねど。と。その夜外翁さか。負れて
 跡を慕ひ来つ。この折戸より。つり。よ。と。い。む。目標の柳も。く。老。あり。
 ちや。あり。んと。を。わ。り。不。彼。首。是。首。を。え。え。ま。が。を。い。つ。ふ。と。胸。り。ひ。て。冬。の
 の。鶯。隠。口。の。ち。花。と。り。も。に。つ。と。と。立。夏。山。も。憂。ゆ。め。れ。ぬ。茶。末。の。点。滴。を

羊七平作陶五郎也。身のほごふらけゆく。生れぬ前の哀別離苦を今さら
 ら小あひす。是も夢の往方なる。さあぐも送る祝の名ハ標石とりた小い
 までも世ふあつらの命長けれと祈る。いのちをいさる。歎かひいと諫ま。曾太
 郎もうち咳れて声を激し。さむらひとまれやまれ。赤根生あつと似けは。これ親
 と。慕ふも女じくもうち歎くを。あの人のおと見や。さく。回向の。と。向の香
 草を折る。あつら。の一言小諫られぬ。取を改めて佛の員と七本の筆部遊
 伏ぐ阿闍灌頂衆皆ひらく。頼る。法号俗名唱つ。往生得脱正覚位授樂与
 樂と念ぐ果や。中。墓所を立出。更小寺僧小別を告。後者ホを。喚聚へ
 歩よ。と。公ハ轎子を後方小擡し。うちつれ。と。て。女。と。旅宿へ。歸。と。る。と。ぞ。

詭偽の葬送

赤根蟻松の黨ハ法會備る。と。志を遂おけれ。次の日衆皆大和。と。

くらまよ。通陶五郎。あ。既。不。続。井。殿。の。返。書。あ。つ。と。彼。池。と。退。出。

私の旅あらね。直さに華洛へ。赴。た。と。一。忍。軒。の。か。ん。首。途。を。す。ら。し。なる。

下と。名残の。竭ぬ。袂を。さ。ら。ち。後。者。を。引。俱。し。は。伏。見。街。道。を。投。て。

の。そ。が。し。と。の。か。に。話。す。ら。ふ。又。下。の。難。波。村。の。稍。盡。如。小。敗。鐵。古。衣。紙。

層。あ。ん。ど。と。ぎ。く。穢。汚。た。る。物。を。の。も。買。り。賣。り。て。生。活。と。す。る。全。交。と。ふ。

瘦商人ありけ。藻汐草り。集。て。も。ま。ぶ。足。ら。ぬ。親。子。あ。う。ら。が。旦。夕。の。煙。

の。價。い。あ。ら。ひ。も。あ。が。た。の。母。の。病。苦。を。子。の。ま。ひ。と。ら。ふ。看。病。つ。孝。行。庸。常。あ。ら。

海の音あづ。ま。ま。と。く。け。の。も。又。融。と。と。さ。う。ら。夕。陽。ハ。結。句。白。屋。よ。拵。衣。の。

の。暖。さ。も。小。春。日。和。と。鶯。の。細。く。鳴。く。門。の。寂。寥。し。浩。外。よ。これ。も。又。あ。ら。う。世。

こ。ろ。若。し。の。一。荷。小。の。ま。る。古。道。具。を。肩。に。擔。じ。小。擔。ひ。ま。て。遠。小。裡。回。を。

入。ま。つ。全。交。ハ。宿。よ。在。ひ。ら。た。物。買。買。た。ふ。直。が。と。と。せん。と。門。口。へ。重。擔。を。

撲地と扛ちる声は、あつた母の頭を、搥碗小虎子よ茶湯
 あれあつたる枕、お人ふんせんも、憚の咳逆、嘔くと咳、死に裏より羊面推
 向く。二枚屏風と、りろ骨の、高病、驚い床、榻痛む、腰を、これ
 持り、起直り。四五六の、来、ま、り、飲、全、夜、の、宿、よ、あ、ら、ね、ど、尻、う、ち、あ、り、て
 懸ひ、あ、今、を、帰、る、と、う、と、う、ひ、入、ら、れ、て、搥、撈、る、擔、籠、の、内、の、煙、包、さ、ら、ば、一、吹
 び、さ、め、と、上、を、櫃、又、膝、を、よ、ま、よ、阿、婆、の、り、来、て、え、て、も、来、て、え、て、も、藥、の
 験、も、あ、り、の、あ、ひ、て、や、その、位、又、頭、坐、も、あ、ら、ね、ど、些、の、飯、の、食、り、や、す、る、欲、う、あ、く
 と、も、な、ま、あ、へ、近、曾、洛、や、の、多、せ、連、歌、も、人、の、身、よ、あ、と、あ、げ、り、め、と、汁、食、み、て
 肥、ぶ、ぬ、り、の、あ、り、我、ら、ら、を、鬼、う、く、食、著、あ、と、信、女、の、慰、め、あ、ら、ら、
 腕、を、伸、ひ、地、炕、の、埋、大、小、和、泉、新、因、つ、た、あ、ぬ、煙、草、も、物、を、あ、り、せ、た、と、
 さ、ら、な、ば、よ、伽、り、ど、あ、り、た、留、舟、の、宿、よ、入、の、言、禁、の、紙、あ、り、と、思、い、
 世、間、の、あ、つ、た、老、の、つ、ひ、あ、れ、ば、束、一、髪、と、り、ろ、夫、よ、白、く、剃、た、る、齒、を、あ、ら、り、
 ぶ、ら、ぶ、も、莞、尔、と、笑、之、高、賈、穀、計、の、ど、く、な、ら、ね、ど、王、女、と、い、を、あ、り、
 四、五、六、ぬ、心、身、の、た、が、ぬ、べ、う、も、作、ら、ね、ど、の、妻、よ、ま、吾、侪、が、病、著、貧、乏、の、病、を、
 搦、や、せ、る、茶、劑、も、牙、帶、も、あ、ら、ね、ど、わ、り、手、を、あ、せ、ど、と、憂、自、も、せ、ね
 奇特、の、つ、ぶ、子、を、養、う、小、あ、ら、ね、ど、ら、稀、ある、孝、行、よ、愛、て、小、坂、大、坂、の
 商人、も、あ、ら、ね、ど、物、貸、も、あ、ら、ね、ど、ま、ま、の、あ、く、も、あ、れ、懸、母、が、絆、と
 あり、て、活、業、も、あ、ら、ね、ど、物、の、入、り、又、と、借、銭、の、只、月、毎、増、え、る、五、七、年、
 以前、と、婦、ひ、と、せ、ま、と、薦、も、妻、を、娶、ま、と、あ、め、が、う、ら、母、の、養、ひ、疎、
 あり、あ、ん、珠、さ、ら、聖、の、貯、積、も、寒、衣、を、擇、ら、と、ま、ま、の、誓、縁、結、ぶ、り、の、女、あ、ら、
 母、だ、い、在、せ、ば、い、か、お、お、物、足、ら、ぬ、と、い、い、ぬ、と、も、それ、あ、り、け、し、ま、よ、う、け、も、
 ぞ、う、く、す、る、福、よ、吾、侪、の、大、病、買、賣、止、ま、羊、年、あ、ま、り、親、子、坐、食、の、胸、
 透

さを猪しぬとひひけり。堪ぬをまふ。咳入れの四五六も嘆息し。これ又さら
 咳逆る。一口咽喉を潤しぬ。湯茶やめ。と草鞋の紐と捨捨りし。とらる。
 土瓶のぬる湯汲く。歩ん片も。捨る。鶴骨。衰ええ。痛く。さめく。勅れ。
 や。よち捨てありぬ。ちちあらぬ。とひつ。枕を杖。身を起せ。喃を
 の儘。半臥ぬ。と物うち被る。をのせり。うち臥て。そのゆる身。あが。の程も
 身を起し。とち。譚ひ。が保。艱。よ。作り。そのよ。あ。の。呼。あ。せ。せ。り。の。女。抱。困。ト
 あ。ぬ。ま。ら。は。似。び。多。た。親。切。を。今。う。も。あ。れ。全。次。が。胸。ら。ば。え。り。ま。り。も。て。飲。し。は
 ら。ふ。あ。ど。て。あ。く。ま。を。ほ。れ。中。と。か。よ。ね。ば。と。よ。あ。く。よ。又。い。ひ。あ。り。ま。り。の。ゆ。を。と
 と。い。今。さら。に。うち。捨。ち。も。帰。ら。ま。い。これ。も。浮。世。と。四。五。六。を。枕。迎。ふ。ひ。た。居。つ。
 いる。阿婆。の。浪。速。三。段。駈。巡。り。も。頃。日。の。日。の。短。さ。の。果。敢。こ。し。た。残。り。も
 る。の。と。い。ひ。か。ぬ。あ。く。又。素。も。あ。つ。て。帰。る。更。次。と。い。ひ。の。外。一。擔。よ。あ。ま。る。敗。累。と。い。

さく肩の減込ふど。傭夫買ふ。相場尺。よ。あ。の。ど。う。う。け。か。ろ。せ。り。肩。中。を。免。詞
 敵。あ。ら。ま。も。緩。す。ふ。あ。ら。ま。べ。喃。阿。婆。の。人。ま。の。笠。の。え。と。り。の。と。賤。れ。も
 折。り。の。撰。り。も。又。この。高。賣。喃。阿。婆。の。字。あ。り。も。朝。う。ら。買。と。ゆ。め。り。も
 容易。の。福。を。援。ぬ。大。黒。町。ま。り。本。せ。り。と。び。れ。西。傾。く。日。吉。橋。の。小。家。の
 窓。から。ゆ。と。め。られ。財。布。あ。ら。ま。つ。け。直。の。相。許。出。来。て。六。七。百。の。り。り。の。あ。る
 破。産。物。買。て。免。の。緒。を。締。賣。分。捕。高。名。の。傍。侍。ら。れ。え。ぬ。と。門。戸。に。走。り
 ち。り。つ。引。し。て。ひ。と。づ。と。取。り。佛。器。高。杯。供。養。膳。袷。の。卓。圓。も。符。の。利。ち。り
 古。本。の。白。木。の。位。牌。や。誰。か。の。後。も。よ。と。夜。の。鶴。も。蠟。燭。輿。も。電。の
 ち。り。て。三。曲。の。あ。う。の。煙。は。煤。ひ。なる。乾。津。の。花。筒。洞。響。脚。の。脱。た。る。經。枕。茶。盆。の。尻
 由。黒。漆。よ。し。と。ま。ま。ぐ。炊。し。美。美。の。鍋。比。獄。の。釜。の。二。斗。を。う。れ。ら。ひ。と。う。ち。里。小
 内。入。子。の。米。櫃。の。縁。の。も。る。び。伊。丹。持。底。ま。の。残。る。糶。米。の。菩薩。の。行。を。勤

かし。生道かかろま。たれ裳脱の売とあらば。あまの母は。彼をつくと
 えて嘆息し。神社佛閣。請と。賽銭するぬりの。あれた。佛の。論を。剥と
 かり。活業と。いひ。あがら。そ。た。物をも。利の。のみ。あ。度。索。被。て。物。も。せ。後。の。世
 さ。ふ。お。ひ。や。れ。さ。も。う。じ。物。体。を。南。無。阿。彌。陀。佛。と。念。ず。れ。ば。四。五。六。町。と。打
 笑ひ。や。阿。婆。の。涙。り。り。る。字。を。古。借。の。分。散。女。房。置。去。單。居。の。頓。死。頓。滅
 園。宅。の。財。器。列。あ。ら。び。て。賣。り。の。損。買。り。の。得。出。取。入。取。入。時。の。估。面。を。不
 便。の。痛。し。の。と。あ。ら。同。屋。の。貨。物。が。減。ふ。と。く。與。販。せ。ぬ。と。あ。ら。ふ。と。さ。り
 とい。ん。夫。の。私。意。を。活。業。と。れ。ば。病。者。の。枕。方。か。る。佛。の。五。器。位。牌
 ろ。ん。ど。い。忘。れ。あ。ら。ん。あ。ら。ば。困。帳。い。ま。め。と。さ。り。い。ま。せ。れ。ば。あ。ら。う。笑。え。い。を
 公。お。け。け。ら。ん。七。難。八。苦。も。救。を。あ。い。仏。の。利。益。と。さ。り。況。て。聖。と。も。た。の。ま。ま。と。ぬ
 老。の。病。著。一。向。又。西。方。彌。陀。の。引。接。を。待。た。る。の。ま。ま。と。ぬ。病。の。苦。を。

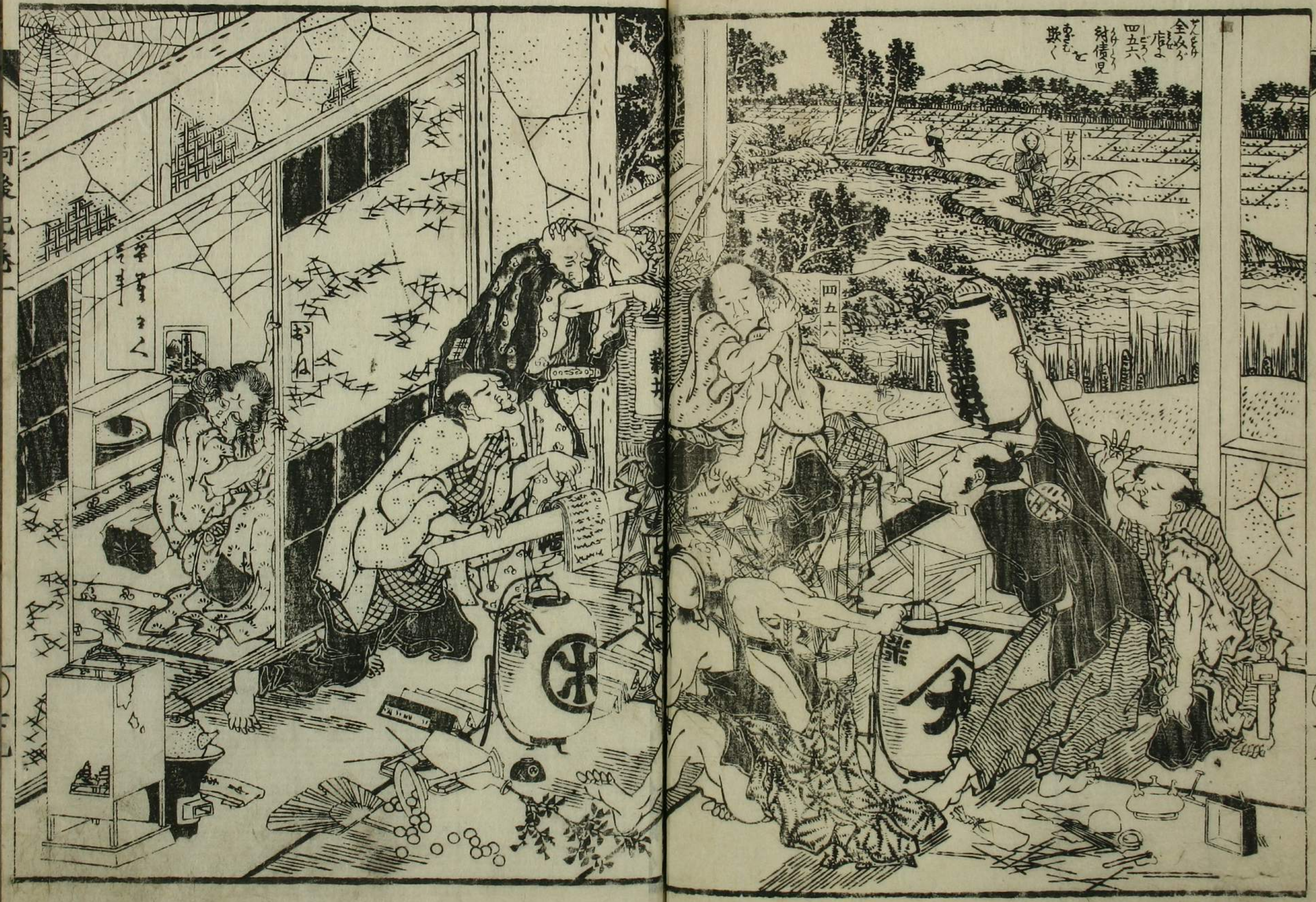
あり。苦。れ。の。負。債。の。呵。責。去。の。晦。日。を。い。ま。め。て。い。ま。め。た。れ。今。宵。の
 非。小。逃。走。は。こ。の。あ。ま。全。女。い。ま。め。の。あ。ま。金。借。り。あ。れ。れ。ど。何。処。か。あ。霜
 枯。時。と。羊。も。調。ね。秋。日。の。暮。々。小。掃。り。も。未。だ。命。の。病。の。御。仏。も。救。ふ。あ。い
 さ。せ。ば。坊。賈。の。も。小。善。と。され。大。宅。の。恥。を。え。あ。ら。ぬ。数。あ。ら。ぬ。身。を。世
 あり。息。又。歎。は。後。世。の。罪。を。や。ま。ん。墓。を。物。を。と。り。と。と。と。憂。を。せ。せ。あ。い
 苦。れ。ま。の。老。の。僻。言。す。あ。が。あ。い。と。と。と。面。あ。げ。よ。う。た。は。競。い。ま。い。り
 あ。ら。ど。さ。ら。あ。ら。で。常。言。の。小。膝。と。合。今。宵。脱。ま。ぬ。負。債。と。同。か。も。た。れ
 たら。米。家。に。新。家。小。莊。役。と。の。未。進。あ。ら。ん。そ。れ。あ。ら。音。信。小。あ。ら。て。公。強
 とい。ぬ。負。之。一。得。よ。あ。ら。寄。を。引。う。け。臨。機。應。変。の。軍。界。あり。女
 ざ。ら。あ。い。小。全。女。よ。り。も。代。り。て。討。債。兎。を。追。う。て。ま。あ。ら。せ。ん。身。の。物。の
 陰。小。解。れて。何。ゆ。あ。ら。と。も。い。ら。ば。咳。つ。た。あ。ら。ま。あ。ら。と。の。便。り。と。あ。ら。り。

に説諭せらるるもほご既を掉人の所帯をいふあつねどおん身小餘
 の貯禄ありと救めするああらじ正あるをあらじと全女は崇あらせまも
 を吹麻を求るて何ういふは鯨つたやらん所おらうけけとといせもあつ打
 笑ひ文明うまれの人只の頑小公儀と今の世あひかじらん身のと居て鯨
 とあは後らじもつたがむも吾侪が引うへる小全女あつれとてあつせんや
 たりてくや黄昏たりやう行燈をと引あらん棚の隅ある燈の光いとく
 るく打つは蒸燗の硫黄小煙くと嚏る鼻をうち掩ひ燗の光とともい
 暗は瘦燈を掻かこつと是から飾附細工の有流落成か緊要阿波女
 此よあつとひつて必音子をあひとらつてと後方より理あつ腰を抱え
 起し障子の内(潜)折しもあれさつくと草金剛の鉄の音門口らうく
 ぬれぬ渠いや来たたりと四五六さつと慌て門を鎖し却何があつと彼此

うまらるる飯米桶の内ま鍋釜いと重しこれ究竟と遠く蓋ふ載とく
 卓曲と共あけたる麩索の端いと長け文字棟と結び引捨る襦も
 やらせぬの戸を開くと二人破るさつと敲とをいと應へ頭ま入れ
 件の桶を正面小押居る経机の片脚りさつと煙盤上より位牌銅磬香
 炉花筒按排とつとく焦燥討債とも暮るや暮ぬや門鎖ちも今夜
 いろ脱ぎぬぬ用とやあけよと書ととも四五六騒ぐ気色もあつとあつ
 ぢと辟らうある二枚屏風を逆さゆ小桶のほとり立ららひつと笑つら
 嘆け戸口をさらりと引かれは約や遅しと米家の杵や一番兼と名告りけ
 挑燈揮るさつとく入る二番ハ薪屋の樵夫右助つ二番は菰井啓菴物体
 はひと引さるは莊役の親平が襷積も消たる番袴の塵埃鞭つ殿か
 かのく苦虫吟漬し踏が隔る敗床の野郎席蓆のその中(交)る坊

主も臂を張て左より頭を廻し金さのりく初由とて全女の迎
 つばか懐さへ入るるに影を隠せりとわくさんへた平人の物をさめて果の留
 守をつりぬ大膽之是まを物のつらども面皮が認るなる八丁寺町の敗鉄との
 和主苗子を預るやらこの件のつら合点あるべし七月九月と両節ま豆板
 一顆茶代さらど小毎日三貼の方劑の缺らん別煎煉薬入参中を悉進送
 ても蛙の面水加減煎たやうの常の如れ五貼七貼の風茶も二分礼の世よる
 況る歴々の医者達が匙を投たる大病人をけりまてとりも苗めり誰が陸と
 といひぬ世よある人をやまて小療治さるりのあらば白銀巻物乾鯛宮二疊の
 玄関に置あまる射斗目麻上下の使者を受んよ腰の床搦の膿たも潰さして
 とも挨拶せん長袖の身ゆあれが書判も配せり討債もいあれどととい
 蔑る飲さるあぐい茶の效と生延たる命が今更惜らるい活とていふ
 尋もあれをくもあらぬ命あらりりらるハ吾侪が本事人参を吞りて
 首溢るま及ぬと腰のら随人躰を膝から崩た片胡坐理屈あらと揉小味る
 按摩あぐいの鄙俗なり療治らぐいの口舌も痛くあれ腹探る四五六を笑ひを
 忍ひ飽まていせて政を搔れ宜か所る有理推量のどく全女の宿よあらど
 さと老母といひせも果と杵双熊養右衛門九右より帳面披る眼を睜とや留
 守小居る敗鉄との古物買ふが活茶も擇も好る全女が古借残の買れもせ
 さととも喧嘩を買んとあらぶあん身ありとて免がせられはあへの春より
 進送たる飯米の藪との方劑ももつ親とまが西路命を繋る膳の綱とをり
 ちうちら朝夕の烟を立さうなる薪の恩徳一百何十何又の涙りうこの慈悲を
 仇晦月あやむらぶとといひの外よひ走されこの月もとち六日たる全女を出
 ぬいふと取り取らぬいまぬと嘯く向親平の膝より容々袴の綾をつまこ

主も臂を張て左より頭を廻し金さのりく初由とて全女の迎
 つばか懐さへ入るるに影を隠せりとわくさんへた平人の物をさめて果の留
 守をつりぬ大膽之是まを物のつらども面皮が認るなる八丁寺町の敗鉄との
 和主苗子を預るやらこの件のつら合点あるべし七月九月と両節ま豆板
 一顆茶代さらど小毎日三貼の方劑の缺らん別煎煉薬入参中を悉進送
 ても蛙の面水加減煎たやうの常の如れ五貼七貼の風茶も二分礼の世よる
 況る歴々の医者達が匙を投たる大病人をけりまてとりも苗めり誰が陸と
 といひぬ世よある人をやまて小療治さるりのあらば白銀巻物乾鯛宮二疊の
 玄関に置あまる射斗目麻上下の使者を受んよ腰の床搦の膿たも潰さして
 とも挨拶せん長袖の身ゆあれが書判も配せり討債もいあれどととい
 蔑る飲さるあぐい茶の效と生延たる命が今更惜らるい活とていふ
 尋もあれをくもあらぬ命あらりりらるハ吾侪が本事人参を吞りて
 首溢るま及ぬと腰のら随人躰を膝から崩た片胡坐理屈あらと揉小味る
 按摩あぐいの鄙俗なり療治らぐいの口舌も痛くあれ腹探る四五六を笑ひを
 忍ひ飽まていせて政を搔れ宜か所る有理推量のどく全女の宿よあらど
 さと老母といひせも果と杵双熊養右衛門九右より帳面披る眼を睜とや留
 守小居る敗鉄との古物買ふが活茶も擇も好る全女が古借残の買れもせ
 さととも喧嘩を買んとあらぶあん身ありとて免がせられはあへの春より
 進送たる飯米の藪との方劑ももつ親とまが西路命を繋る膳の綱とをり
 ちうちら朝夕の烟を立さうなる薪の恩徳一百何十何又の涙りうこの慈悲を
 仇晦月あやむらぶとといひの外よひ走されこの月もとち六日たる全女を出
 ぬいふと取り取らぬいまぬと嘯く向親平の膝より容々袴の綾をつまこ



同可念己

学

お

井

四五六

全
分
四五六
付
見
敷く

南
才
行
言
卷
一

十
八

出さうらひ 嗟れ 左右方とも小静里あへり。所道徑至極久し。馴染の全女
 親子 莊後がひよ美負。埒あけて進らむべし。いりまほくの口も。各位はま
 あん。十月よあまる。房浅の未進積。まきいとあり。母出の可愛とあれど。ち
 吾侪くら取る浅あり。といふく。あつたもあれ。宿は長食。裁の益あら。や容る
 所全双ハ苦。なま小母を負。逐電で小疑ひ。う。もれども。吾侪が追留ん
 るを。怖害。それるを。とを。残し置時を。後。と。さる。を。遠く。あり。誘
 に入追蒐。引戻さん。つ。あ。の。と。小膝を。敲。左右を。信。と。え。れば。公。の
 たり。應。あ。を。愛。皆。一。并。挑。燈。を。引。提。立。あ。げ。ば。や。の。あ。へ。と。四。五。六。が。
 慌。忙。禁。ま。ど。も。競。ひ。あ。け。癖。あ。れ。ば。は。う。揮。拂。小。彼。首。此。首。よ。う。著。板。
 籠。り。も。を。ぐ。衝。倒。され。く。忽。地。礮。と。輾。轉。等。小。倒。く。屋。風。の。裡。小。常。を
 雨。の。早。桶。ハ。魂。魄。ら。小。あ。ら。箇。地。獄。の。制。度。も。金。よ。る。欲。を。と。れ。ぬ。討。債

等。も。それ。と。呆。ま。さ。う。落。と。挑。燈。と。り。ろ。とも。小。忽。地。緩。む。怒。の。う。強。い。
 的。三。射。外。也。祖。也。入。ま。さ。居。あ。ら。べ。の。四。五。六。を。鼻。う。ち。り。各。位。是。と。見
 め。わ。あ。の。れ。活。業。の。り。ど。う。道。全。双。許。来。う。ん。ま。バ。老。母。の。臨。終。痛。く。あ。る
 時。を。を。ら。ら。う。も。あ。ら。ぐ。の。友。さ。る。あ。い。も。あ。れ。ば。全。双。を。諫。め。激。く。後。の。の
 ろ。ど。り。の。と。る。小。擲。を。買。う。べ。た。錢。あ。と。と。う。ち。歎。く。人。の。子。の。お。あ。胸。の。こ。い。こ
 樽。内。の。物。も。あ。れ。骸。を。と。と。あ。う。今。宵。の。葬。送。を。告。す。う。さん。と。く。全。双。の
 香。花。院。に。ま。り。し。う。留。守。し。居。る。身。の。氣。味。も。さ。衛。は。障。子。の。さ。う。く。と。
 鳴。つ。つ。の。も。ひ。ひ。と。い。が。要。皆。目。を。注。し。それ。も。あ。ら。で。行。燈。の。ほ。ろ。り。ち。う。く
 集。合。ま。ど。安。も。あ。く。傍。痛。き。あ。の。の。母。の。忍。び。あ。ひ。て。這。出。ん。と。あ。う。り。と。あ。
 四。五。六。も。も。え。う。ま。う。嗟。夫。出。あ。あ。る。出。あ。あ。る。と。い。が。要。皆。ら。う。を。ほ。ど。中。よ
 敗。鐵。の。出。る。と。い。竹。の。の。が。何。処。と。と。出。る。中。と。向。つ。共。武。者。が。ひ。て。肩。と。肩

とをとりぬ。とひうもてや親平の行燈の火を掻くれば四五六も小膝をこせ。
 さればまといひつる宛鬼のふぞあ。あのがかひの惑ひもや桶の内あてめりく
 と物の響のちるるこり宛鬼小出らまはるべ入りともあれ其まじりある幸は
 めをやんん跡叮嚀小吊べたよ出てわらぬえせあふなと興へたりさる
 謎ふひらうしれは今更ふあうの母の出りていふかひ安らうとも知されば
 討債見ホを項や寒くあぬ歯を齧ちめて阿弥陀仏弥陀仏と
 且く念ふ息吹吻た現墓あれた人の命長病といひあがらまのあひかた
 ちらざりし餘病や發ア。危病まき。さうや諾いと信やふらうめめめ引
 思ふ。悶懣る世間の人のらう小鬼ぞあれた四五六もまをよと笑顔あけり
 うら点頭いつく如く頃目薄紙を剥くさう。顔の色もいんまほせり。ふ
 ずばきのみ杵ぬが。この後の貸ぬこそちがりく二三絆あうぬひ米の中か

嵐の糞の澤山ありや。全女親子の飯を食ふと忽ち食傷して仲つ
 夏つ苦うが辛うさう愈うさう。それど彼飯粒が老母の齧の虚小入る。
 とあけしる程出がし薪の鹿牙を養齒ゆき。あね出さんとあさりしうが。
 親忽ち腫あがりて疼痛と甚し。口漱んとく椽頬へやうや小這ひ出れば。
 庇裏の椽落る。脊を彎まき苦と叫び息絶あんとする程よ全女膝を啓
 菴老の加減の湯茶を只一口飲いたれば直まよ往生察する所飯小中られ
 薪の鹿牙は親を破られ親平のほらうらう小ら吾侪の家こと苛く
 末進を責めぬと雨の漏らふららぬ白く。庇裏を腐し椽を落して
 脊を彎まき。教井氏の湯茶まき。終まよめをさきさきたれば件の四人の
 己が母の雙言敵こころ全女が恨の涙りうともよ。さうたる物語りのと理
 とらぶる。彼もられも定業あらん小。さうねく人を恨あ。とさめく小寛賺して

香花院へ変じたり。金錢の原涌物人の命を換ぐじ人殺しの罪をゆて
 あひく獄屋に移さるる。何の身をりき全奴が負債を償ひぬる。苦じと
 威されて。さるるも小頭を挿れ世小食毒といふものゆれど。飯小中よりと
 しののを穿る。薪の産牙より。銀を腫ら核小背を穿る。薪を屋
 主の罪より。詮ぐる。所啓菴老の方より。ひひりや。ゆらんといふものゆれど
 眼を睜る。いひ。それの僻言。米小苗の糞を交る。蚌目を偷む。米の罪
 悪木を薪より。銀を腫ら。薪屋の罪核の朽る。を造る。人傷たる
 の屋主の越度ともいふ。さるる小彼。宿終小長。苦惱をさるる。ゆれど。心息を
 引くら。ゆれど。匙は妙ある。所。医師より。なえて。恨む。いひ。それの僻言。いひ
 疑ひ。三人より。医師の絶る。さるる。ゆれど。いひ。ゆれど。角くむ
 芦の水より。論果の打ひ。廻る。四人が中。四五六を諸肩。組て。推隔。ゆれど
 何ゆぞ。證據も。ゆれど。争ふ。ゆれど。士。ゆれど。ゆれど。疑ひ。ゆれど
 自餘人。ゆれど。ゆれど。ゆれど。ゆれど。ゆれど。ゆれど。ゆれど。ゆれど
 され。額を拵る。ゆれど。ゆれど。ゆれど。ゆれど。ゆれど。ゆれど。ゆれど。ゆれど
 小あり。禍ある。ゆれど。ゆれど。ゆれど。ゆれど。ゆれど。ゆれど。ゆれど。ゆれど
 かし。ゆれど。ゆれど。ゆれど。ゆれど。ゆれど。ゆれど。ゆれど。ゆれど
 所存。ゆれど。ゆれど。ゆれど。ゆれど。ゆれど。ゆれど。ゆれど。ゆれど
 くら。点頭。ゆれど。ゆれど。ゆれど。ゆれど。ゆれど。ゆれど。ゆれど。ゆれど
 あら。ゆれど。ゆれど。ゆれど。ゆれど。ゆれど。ゆれど。ゆれど。ゆれど
 たる。物。ゆれど。ゆれど。ゆれど。ゆれど。ゆれど。ゆれど。ゆれど。ゆれど
 扛。ゆれど。ゆれど。ゆれど。ゆれど。ゆれど。ゆれど。ゆれど。ゆれど
 いろ。ゆれど。ゆれど。ゆれど。ゆれど。ゆれど。ゆれど。ゆれど。ゆれど

南無阿彌陀佛

三十一

ちらねの某が肩をたどる。おのふまうの善根あれんがて莊役
 どのよ早桶をの早された。挑灯引提了先小立御道をたぬひね医師
 どの天窓後寺より迎の所化代は宗旨の経文とらぬぬとのふれ顔
 頭を振りや天窓の山くもあれ。医者小佛経誦する茶坊まは引導を
 こそせといふより難題の況僕らの年未療治は暇絶くはさるふらて
 大成論十四經の假名附とも一行も讀まぬ讀たそのふのふか
 と返巡するを聽ぶを。衆皆理なく早桶のほとり近く撲地と列居おくひ
 杵ぬ熊脊右脇の對まに亡者を托りておくふ。みひより素手うち
 してららまにさるを。経をさるん念仏とも題目ありとも唱あへ
 こととさるがされ脱とあまやさひらん懷あるま拭を額當て汗を
 去るのりある呵責を。経をさるぬ身ありとも題目念仏いあまふ

まさの法華經の第ニ示茶草喻品ありとすしが毎日一匙一おけて知る
 茶種の日まに間を合せん。多へくと。そのは味た机のうへある鐸ふらと
 ニツツ。四つら鳴ら。えん。遠志。麥門。茯苓。半夏。細辛。乾姜。肉桂。
 芍藥。厚朴。地黃。大黃。升麻。麻黃。甘草。附子。黃連。黃芩。人參。
 芍薬。厚朴。地黄。大黃。升麻。麻黄。甘草。附子。黄連。黄芩。人參。
 唱る。四五六。私器。茶筒。机。入。母。の。敗。器。を。集。め。て。桶。の。上。小。括。り
 著る。亡。者。の。年。未。と。を。ゆ。物。あ。れ。ば。香。花。所。進。ら。る。寺。の。さ
 へん。八。丁。目。寺。所。より。さ。る。夏。屋。山。四。五。六。七。堂。峨。囉。具。の。灵。場。の。ま。に。擡
 ち。あ。の。が。初。を。さ。う。と。さ。る。を。い。ふ。と。杵。ぬ。熊。脊。右。脇。の。諸。肩。入。さ。り。早
 あ。る。ま。の。志。の。間。よ。あ。ら。ぬ。ま。や。門。燒。の。燒。ぬ。親。平。が。挑。燈。よ。引。を。さ。り。さ
 とも。立。止。れ。ば。あ。の。の。母。の。ゆ。も。ぬ。堪。む。障。子。の。内。より。坐。行。出。戲。も
 る。ふ。ふ。ふ。の。や。さ。れ。の。竹。み。ぞ。物。借。り。更。さ。ぬ。の。と。欽。恩。あ。る。人。を。欺。詐。ら。ん

南無妙法蓮華經卷一

三十一

のら ひんま ひんま 後の崇をりる ひんま 八引苗をたぐ四五六ぬ。 ひんま 喃くと ひんま と ひんま 啓菴 ひんま 高才 ひんま
香附子 木香 当归 川芎 黄連 黄芩 猪苓 茯苓 芍药 甘草 人参 白朮 熟地黄 肉桂 附子 干姜 半夏 陈皮 枳实 芍药 甘草 人参 白朮 熟地黄 肉桂 附子 干姜 半夏 陈皮 枳实
 風。川骨。没藥。大壘。黃。藥。丸。散。丹。湯。生。姜。二。斤。煎。法。
 若 ひんま 常 ひんま 外目もあらど唱の声よりかたされ。老の誠のさあひど ひんま と ひんま け
 身を招魂遠離ゆく ひんま 挑燈の火の ひんま 燃ゆる ひんま まを ひんま 抗る ひんま 。 ひんま 是 ひんま 喃くと ひんま 呼ぶ ひんま ぞ
母 ひんま 母 ひんま の ひんま 厭 ひんま 鬼 ひんま の ひんま あり ひんま らん ひんま 。 ひんま 全 ひんま 双 ひんま 目 ひんま 今 ひんま 帰 ひんま る ひんま ぞ ひんま 中 ひんま よ ひんま 是 ひんま あり ひんま と ひんま 拈 ひんま 起 ひんま され ひんま け
うち ひんま ち ひんま 驚 ひんま いた ひんま 原 ひんま 来 ひんま 夢 ひんま 飲 ひんま と ひんま なる ひんま 事 ひんま 。 ひんま され ひんま も ひんま あり ひんま ぞ ひんま 比 ひんま 然 ひんま たり ひんま 。

占夢南柯後記卷之一終

